

## 茨城県における梅毒の患者発生状況について

茨城県衛生研究所 企画情報部

○梅澤美穂, 梅川千晏, 石井崇司, 永田紀子

### 【背景】

近年、全国的に梅毒患者報告数が急増しており、2017年には国内で44年ぶりに5000人を突破した。今回、茨城県における梅毒患者発生状況について報告する。

### 【方法】

茨城県において、2013年から2018年11月14日に、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に基づき届出があった梅毒320例について、性別、年齢群別、推定感染経路別及び病型別等について分析を行った。

### 【結果】

各年の報告数は、2013年が24例、2014年が24例と横ばいで推移していたが、2015年は42例、2016年は69例と急増した。2017年は57例と前年より若干減少したが、2018年は11月14日時点で104件と大幅な増加がみられた。全320例を性別・年齢別にみると、男性は40代、20代、30代の順に多く、比較的幅広い年齢層にみられた。一方、女性は20代が突出して多く、次いで10代、30代と若年層に集中していた。近年の全国的な特徴として、20代女性の増加が著明にみられるが、本県においても、2013年には2例であった20代女性が2018年には18例と急増している。推定感染経路については、異性間性的接触が最も多くを占めていた。診断時の病型は、男女ともに無症候が最も多かった。男性は無症候が73例（36.9%）、次いで早期顕症梅毒Ⅰ期が66例（33.3%）、早期顕症梅毒Ⅱ期が49例（24.7%）と大きな偏りがみられないのに対し、女性は無症候が56例（45.9%）、次いで早期顕症梅毒Ⅱ期が40例（32.8%）と、これら2つが女性全体の8割以上を占めた。また、2016年及び2018年には、先天梅毒がそれぞれ1例報告された。

### 【考察】

本県の梅毒患者報告数は、全国と同様に近年急激な増加傾向にあり、特に若年層の女性の増加が著しい。妊婦の梅毒感染は先天梅毒を引き起こす可能性があることから、今後は若年女性を中心に、知識の普及及び検査受診率向上等のさらなる対応が必要と考えられる。